

佳作

夢の県大会へ

福島県 須賀川市立第一小学校六年 遠藤 結生花

「県大会出場校はー。」

私達は、手をつないで目をつぶった。

「須賀川市立ー。」

私達は、もっと強く手をにぎった。「お願いします。名前が呼ばれますように！」一瞬、しんとなり、

「第一小学校ー！」

「キャー！ヤッターー！」

「ウソ!? ホントに!?!」

「ヨッシャー！イエーイ！」

私達は、座っているいで体をはずませた。何度もハイタッチをする友達もいた。顔に手を当てて、泣いている友達もいた。ビックリしすぎて、ぼう然としていた友達もいた。先生方も笑顔だった。私達は、岩瀬地区合唱祭で、予選を突破し、悲願の県大会出場切符を手に入れたのだ。

しかし、ここまでの道のりは、決して平たんではなかった。私達、合唱部は四く六年生の三十名で活動して県大会出場を目標に、みんなががんばってきた。

四年生が音がとれなかったので、先生にピアノで音をとってもらいながら、くり返し練習した。時には、なかなかできない四年生を見て、「まったく、ちゃんと覚えてよ！」と思ってしまうこともあったが、なみだをうかべながら、一生けんめい歌っている姿を見て

「できてたよ！」

と声をかけてあげた。

今年の夏は特に暑く、ホールで練習していると、汗がいっぱい出てきた。ずっと立っているの、足がとても痛くなった。何度も何度も、先生に

「もう一回いきまーす。」

と言われ、正直「えー、またやるの?」と思ったこともあった。中には、具合が悪くなって、座って休んでいる友達もいた。そんな日々が続く、いよいよ大会当日になった。

「プログラム三番。須賀川市立第一小学校。」とアナウンスが流れた。ライトが当たって、とても

まぶしかった。心臓がドキドキした。先生の指揮で演奏が始まった。みんなは、教えてもらった通りに、精一杯歌った。今まで辛かったことが、ふきとんでとても楽しく歌うことができた。約八分間の演奏が終わった。先生が客席に礼をすると、たくさんの拍手が返ってきた。「あー。終わった」ホッとしたよ
うな、なんだかさびしいような気持ちになった。

そして閉会式。私達は、県大会への切符を手に入れた。これは、私一人の力ではなく、三十人みんなが努力した結果だ。毎日、教えてくださった先生方や、「いってらっしゃい」と笑顔で送り出してくれた家族に「ありがとうございます」と言いたい。そして、県大会もすてきな仲間達と一緒に精一杯歌いたい。